

獣害防護柵と忌避剤を用いたノウサギ被害防止の取組について

四国森林管理局 森林・技術支援センター 企画係長 渡邊 由一
(元 高知中部森林管理署)
愛媛森林管理署 宇和島森林事務所 係員 ○中村 光太郎
(元 高知中部森林管理署)

1 課題を取り上げた背景

深刻なニホンジカによる被害に加え、近年、四国局管内ではノウサギによる苗木の被害が増加しています。しかし、ノウサギはその体サイズや警戒心の強さから食害の抑止や捕獲等の被害対策が難しく、またノウサギによる被害対策に関する研究はほとんど行われていないため、有効策は確立されていないのが現状です。

そこで当署では、より有効な被害防止対策の確立に資することを目的として獣害防護柵（以下防護柵）及び忌避剤を用いた試験を実施し、その効果について検証を行いました。

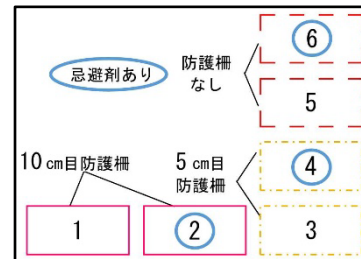
2 取組の経過

試験地として、平成 29 年度植栽箇所が甚大な被害を受けた谷相山国有林 3 リ林小班（香美市香北町）を選定し、右図の計 6 プロットを設置しました（各 0.01ha）。

経過としては、令和元年 7 月に各プロットにスギ 2 年生苗木 20 本を植栽し、下列りを 11 月に実施、忌避剤散布プロットには植栽時と 11 月の計 2 回散布しました。

検証に当たっては、

- ①センサーカメラを用いた防護柵内への侵入状況調査
 - ②部位別の被害状況（頂芽・側枝・幹）
 - ③忌避剤の効果と持続性
- の 3 項目について実施しました。



【プロット概略図】

3 検証結果

①防護柵内への侵入

侵入状況に関しては、10 cm 目防護柵プロットでは頻繁な侵入を確認しましたが、5 cm 目防護柵プロットでは、試験初期にネットと地面との隙間から侵入したと思われるノウサギ 1 羽が確認されたものの、シャトルアンカー増設後は確認されませんでした。このことから、ノウサギは 5 cm 目を通して、5 cm 目防護柵の設置により外部侵入を阻止できると考えられます。



【10cm 目防護柵を通過するノウサギ】

②部位別の被害状況、忌避剤の効果と持続性

プロット 5・6 に着目すると、プロット 5（防護柵なし・忌避剤なし）については植栽後すぐに被害を受け始め、約 2 ヶ月で 8 割が幹を切断される結果となりました。一方、プロット 5（防護柵なし・忌避剤あり）では植栽



【幹を切断されたスギ苗木（左：植栽時）】

後約 2 ヶ月から被害が増加しましたが、大部分は側枝のみに止まりました。また、持続性に関しても 4 ヶ月以上の期間が見込まれ、被害の軽減に一定の成果が得られました。

4 考察

防護柵については、5 cm 目であれば外部からの侵入は阻止できるものの、今後は施業地内にノウサギが生息していた場合の対策を検討していく必要があります。

忌避剤については、苗木が成長し、頂芽・幹への被害が生じなくなる植栽後数年目までの散布により、苗木の成長にとって致命的な被害を軽減できると考えます。